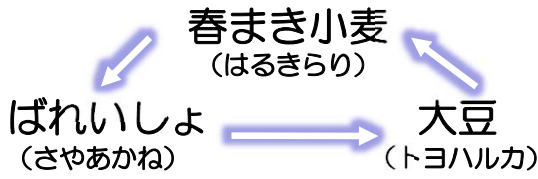
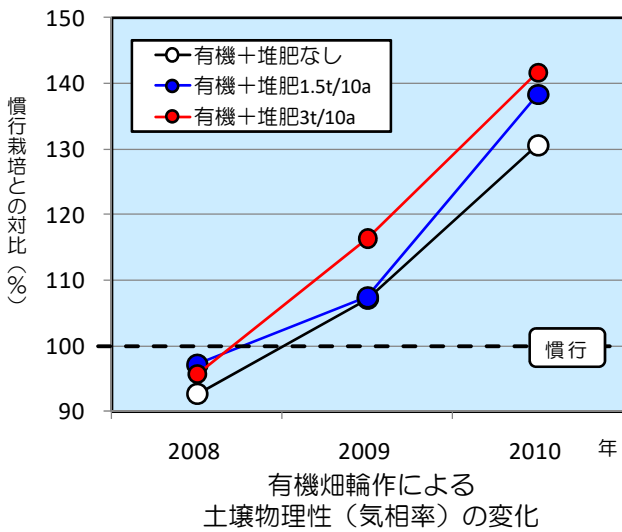


有機畑輪作における地力・収量・病害虫発生の 特徴と雑草抑制対策



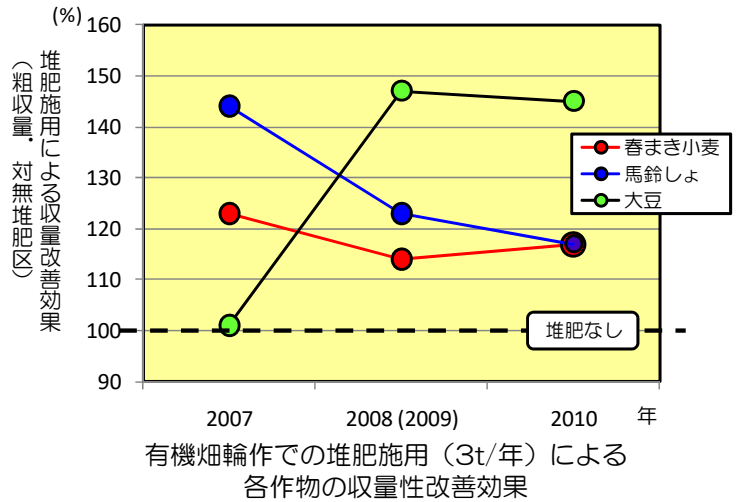
畑作3作物について上の順で有機輪作をおこない、「地力変化」「収量性」「病害虫発生」などについて次のような特徴を明らかにしました。

① 有機輪作で土壌物理性が改善 (特に気相率 (=土壌のすき間) が向上)



② 収量性は慣行栽培より低下... しかし堆肥施用によって改善

大豆での効果は施用2年目以降
ばれいしょ作付前施用は品質低下のおそれ
→ 春まき小麦作付前の施用が適切 (*上限量に留意)



③ 病害虫は赤かび病(春まき小麦)とマメシクイガ(大豆)に要注意

作物・発生病害虫	リスクの状況、対処方法
春まき小麦 赤かび病 (DON汚染粒)	「はるきりり」では比較的风险低い。ただし条件によっては基準値超過のリスクが高まる
ばれいしょ 疫病	抵抗性品種がきわめて有効。「さやあかね」で問題なし
大豆 苗立枯病	播種後低温や多湿土壌で要注意
タネバエ	魚粕施用は発生助長。堆肥も前作以前の施用が安全
マメシクイガ	発生地域ではリスク高い。近隣圃場での状況に注意



④ 春まき小麦の機械除草効果は、生育前半(6月初旬まで)の3回以上の処理がめやす



除草ハロー (狭畦用)



玉カルチ (広畦用)

